

考古資料

東京都内には約6,200の遺跡があり、これまで数多くの遺跡で発掘調査が行われ、膨大な量の出土品が蓄積されてきています。その中から、我が国あるいは東京都にとって重要な出土品は、国指定重要文化財美術工芸品(考古8件)、東京都指定有形文化財考古資料(27件)、同彫刻・考古資料(1件)、同工芸品・考古資料(17件)に指定され、保護・活用されてきています。

国指定文化財の中でも明治10年(1877)にE. S. モースが発掘を行い、日本の近代考古学発祥の遺跡となった品川区大森貝塚の出土品や、農耕文化が開始された弥生時代の美称を冠することとなった明治17年文京区本郷弥生町発見の壘形土器は、我が国の考古学史をかざる資料です。

次に都指定文化財には旧石器時代の石器から、江戸時代までの多岐に亘る出土品があります。板橋区茂呂遺跡出土の石器は、群馬県岩宿遺跡に次いで発見され、南関東における旧石器文化の存在を明らかにし、後期旧石器時代の茂呂型ナイフの標識資料となった石器群です。

縄文時代の出土品の指定は数多くありますが、北区中里遺跡で縄文時代中期当時の砂浜から発見された丸木舟は、船首から船尾まで残る貴重なものです。また、縄文時代の人々は伊豆諸島にも進出し、縄文時代後期の新島村渡浮根遺跡出土品、さらに黒潮を越えた八丈町湯浜遺跡出土品も当時の人々の活動範囲を知る上で見逃せない資料です。

弥生時代の墓制の一つに「方形周溝墓」があります。方形周溝墓は都内でも数多く発見されていますが、練馬区丸山東遺跡の墓に副葬された鉄剣とガラス玉類は都内で最もまとまった資料です。

古墳時代の前方後円墳(帆立貝式古墳)の世田谷区野毛大塚古墳から、5世紀代の鉄鎌・直刀・甲冑等の武器・武具と滑石製の刀子・下駄・坏をかたどった石製品等が発見され、その豊富さは都内随一で、古墳時代中期の南武蔵を代表するものです。



青梅市駒木野遺跡 住居跡から出土した土器

古代には国分寺市内に建立された武蔵国分寺の僧寺・尼寺跡からの3点の出土品が注目されます。工芸品とあわせて指定されている銅製観世音菩薩立像は、7～8世紀代に当地で制作された可能性も指摘されており、当時の東国に仏教とともに様々な技術も伝わってきていたことを示します。緑釉花文皿と唐草四獣文銅蓋も国分寺で使用する目的で招来された仏具関連の一端を示すものです。



国分寺市武蔵国分寺跡 銅製観世音菩薩立像

中世の八王子市柚木白山神社境内地の経塚群から出土した陶器の外容器・青銅製経筒・経巻等は、当時の末法思想の象徴的な出土品として都内で最も優れたものです。

最後に、東京都の歴史を語る上で必要不可欠なものとして近世都市江戸遺跡の出土品があります。千代田区に所在した讃岐国高松藩松平家上屋敷跡出土の利兵衛焼は当時の大名家の「お庭焼き」の好例であり、新宿区自證院遺跡の墓地出土品は当時の葬送に伴う副葬品として貴重な一つです。

第32回東京都遺跡調査研究発表会

都内で行われた最新の発掘調査の成果を紹介します。当日、会場で府中市内で発掘された出土品の一部も展示します。

- 日時 平成19年1月14日(日)
午前10時から午後4時30分
- 会場 府中市グリーンプラザけやきホール
(所在地 府中市府中町1-1-1)
- 交通 京王線府中駅北口下車 徒歩1分
- 入場 来場自由・無料
来場者には「発表要旨」を無料配布します。

*詳細は後日「東京都教育委員会ホームページ」等でお知らせします。

◆ 編集後記 ◆

「東京の文化財」もいよいよ100号となりました。これからも都民のみなさまに文化財の魅力を親しみやすく伝えられるよう、努めて参ります。

平成18年11月30日

発行 東京都教育庁生涯学習スポーツ部計画課
〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話 03(5320)6862